

阿戸地区の『新たなまちづくりプラン』の作成(ワークショップ)の流れ

平成26年度 ワークショップ

- 第1回 ワークショップ 平成26年7月26日(土)
 テーマ『地域を再発見しよう』～魅力・資源、困っていること…～
 第2回 ワークショップ 平成26年10月4日(土)
 テーマ『まちづくりのアイデアを出し合おう』～魅力・資源を生かす・生み出す取組、問題点の解決策…～
 第3回 ワークショップ 平成26年12月7日(日)
 テーマ『まちづくりのアイデアを掘り下げよう』～将来像、地域でできること、行政で支援できること～
 第4回 ワークショップ 平成27年1月31日(土)
 テーマ『まちづくりの全体計画(素案)をつくろう』～まちづくりの『全体計画(素案)』としてまとめよう～
成果発表会(平成26年度 ワークショップの成果報告など) 平成27年3月7日(土)

今年度(平成27年度) ワークショップの予定 ～プロジェクトを実現するための具体的な手立てを検討します～

- 第5回 ワークショップ 平成27年5月23日(土)
 テーマ『保育園跡地活用プロジェクト(その1)』『遊び場プロジェクト』
 第6回 ワークショップ 平成27年8月2日(日)を予定
 テーマ『保育園跡地活用プロジェクト(その2)』『阿戸周遊・情報発信プロジェクト』
 第7回 ワークショップ 平成27年9月ころを予定
 テーマ『保育園跡地活用プロジェクト(その3)』『自然活用プロジェクト』
 第8回 ワークショップ 平成27年11月ころを予定
 テーマ『保育園跡地活用プロジェクト(その4)』『〇〇〇プロジェクト』(今後の状況をみて)

阿戸地区の「新たなまちづくりプラン(案)」の取りまとめ
成果発表会
 阿戸地区の「新たなまちづくりプラン」の作成

具体的な行動 (可能な取組は平成27年度からスタートすること)

「阿戸保育園跡地の活用」などに関する意見を募集しています。

阿戸保育園跡地を、今後どのようにしたらよいとお考えでしょうか。また次回のテーマとなる「阿戸の情報発信や周遊」その他まちづくりについて、或いはこの「まちづくりだより」を読んでのご意見、ご感想などをお聞かせください。ワークショップで活用させていただきます。

<ご意見・ご感想の提出方法>

- 意見箱での受付…阿戸公民館、阿戸出張所、阿戸福祉センターの3か所に意見箱を設置しています。
- ファックス・メールでの受付…ファックス、メールを、地域起こし推進課宛に直接お送りください。

※ お寄せいただいたご意見は、ワークショップやまちづくりだよりの中で公開させていただく場合があります。なお、ご意見等は無記名でかまいません。また、個人情報等の取り扱いには十分注意し、個人が特定できるような内容では公開しません。

問い合わせ・連絡先

安芸区役所 市民部 地域起こし推進課(担当: 松原、佐田)
 電話: (082) 821-4905 FAX: (082) 822-8069 E-mail: ak-chiiki@city.hiroshima.lg.jp

WSのまとめ等…「阿戸地区まちづくりだより」



～阿戸地区新たなまちづくりプランの作成に向けたワークショップについて～ vol. 5

平成27年6月 発行: 安芸区地域起こし推進課

第5回ワークショップは、阿戸地区の新たなまちづくりに向けて、『今年度の進め方(各回のテーマ)』を方向づけ、『阿戸保育園跡地の活用』や『遊び場づくり』について検討しました。

ここでは、5月23日(土)に開催しました第5回ワークショップ※のあらましを紹介します。

まず、参加者がA・B、2つのチームに別れ、Aチームでは、『保育園跡地活用』について、来年度からの具体的な事業実施を目指す方向で、1年間かけて内容を掘り下げること、Bチームでは、昨年度ワークショップで協議した『遊び場づくり』『自然活用』などそれぞれのプロジェクトの具体的な実施方法を各回ごとに、検討することにしました。

A・Bチームでの協議内容などは、2、3頁をご覧ください。

※ワークショップ(WS)とは?

参加者が自由に意見を出し合い、互いの考えを尊重しながら、意見・アイデアをまとめ、計画や提案などをつくること、またはその集まりのことをいいます。

第5回ワークショップのプログラム等(要点)

日 時: 平成27年5月23日(土) 14:00～16:10 会 場: 阿戸公民館
 参加者: 住民の皆さん21人、安芸区7人、進行役2人

はじめに(今年度の話し合いの進め方)

- 昨年度の振り返り
- 今年度の進め方について(確認・検討)

具体的な手立ての検討(チームごと)

Aチーム

『保育園跡地活用プロジェクト』の検討

- 4回シリーズでの検討、住民の意見の把握方法
- 取組の内容(柱となること)と目的・効果
- 実現手法、資金確保の方向づけ など

Bチーム

『遊び場づくりプロジェクト』の検討

- 取り上げるプロジェクト等(今年度4回のWS)
- <今回は『遊び場づくりプロジェクト』>
- 遊び場の候補、内容、効果、担い手など

全体会

- チームごとの発表
- 意見交換、プロジェクト等への参加の思い
- 事務連絡・終了



【第5回ワークショップの協議の内容】

今年度の話し合いの進め方

Aチーム『保育園跡地活用プロジェクト』1年間かけてじっくり掘り下げ

… 活用のあり方・目的、利用内容→運営管理・担い手、修繕・整備、動線（アクセス、隣地等とのつながり）、維持管理費、工事費、実現手法、助成金、スケジュールなど

Bチーム 各回ごとにそれぞれのプロジェクトの具体的実施方法を検討 … 内容・場所・手順・担い手・資金など

第5回(今回)『遊び場プロジェクト』 第6回『阿戸周遊・情報発信プロジェクト』
第7回 『自然活用プロジェクト』 第8回 未定（今後検討）

Aチーム 保育園跡地プロジェクトの検討(その1)内容

【基本的考え（コンセプト）の明確化】

○保育園跡地活用に係る施設の「コンセプト」をはっきりさせる。
（地区内の人が集まる“賑わいづくりの拠点”や外部から集客して“地域にお金が落ちる拠点”など）

【運営主体について】

○全体の管理・統括は連合町内会。事業の実施時には事務局のようなものを立ち上げる。その事務局は、その他の取組（プロジェクトなど）を含めたまちづくりの事務局も兼ね、場合によっては町民出資の法人化も考えられる。

○担い手の確保、担い手をサポート（協力・支援）することが必要。

【地元で運営費を賄うためには】

○光熱水費を賄えることが前提

→ 公園中心はむずかしい（＝維持管理費等が賄えない）
他の機能とセットでの公園・遊び場なら考えられる。

○利益につながる作業場（農産物の加工場）がほしい。既設の調理室を活用できるか。

○維持管理費（光熱水費等）がいくらかかるか、また、駐車場に関して、近隣施設との連携（可能性）の検討も必要。

【JA敷地との一体的活用で利便性を高める】

○利便性を高めるため、JA敷地との境にある水路の蓋掛け、隣地の嵩上げ、フェンスの撤去などが必要であり、区役所にも協力を得る。

○プロジェクト具体化の過程で、時期をみてJAと協議する必要がある。

【施設の改修が必要】

○現在のトイレは男女の区分がなく、保育園児中心の設備（大人は大小各1）。
トイレの改修のあり方と合わせて、改修の費用がいくらかかるかも明らかにする必要がある。

【その他】

○介護教室などの貸し部屋やイベントの利用
○子どもたちの合宿的な場の機能があれば。
○賑わいづくりや地区内外の人の利用を考えると、駐車場が必要

保育園跡地活用の検討



保育園跡地の状況



旧調理室の現況



【日常的遊び場と非日常的遊び場】

○地域住民が日頃から活用する日常的遊び場※1と、外部からの集客もにらんだ非日常的遊び場※2の2つの視点で取組を進めることが必要。

※1 日常的遊び場 … 中心地付近での公園的広場

※2 非日常的遊び場…冒険遊び場など休日に遠出して遊ぶような場所

○非日常的遊び場は、里山あーと村や農家レストランなど他の組織と運営協力し、お互いの利用者を誘致できればさらに活性化につながる。

○非日常的な遊び場について、まずは先進事例の情報提供、視察・体験、小中学生の意見収集等が必要。

【遊休農地の活用】

○遊休農地の遊び場活用ができるか（どろんこ広場、冒険遊び場など）。

【水辺・河川空間の活用】

○水辺・河川空間が利用できるかどうか。
→阿戸福祉センター前の護岸（釣り場などでの利用）や農家レストラン付近の水辺（親水的な空間に）、里山あーと村より下の堰堤付近の広場の活用（民地かどうか要確認）。

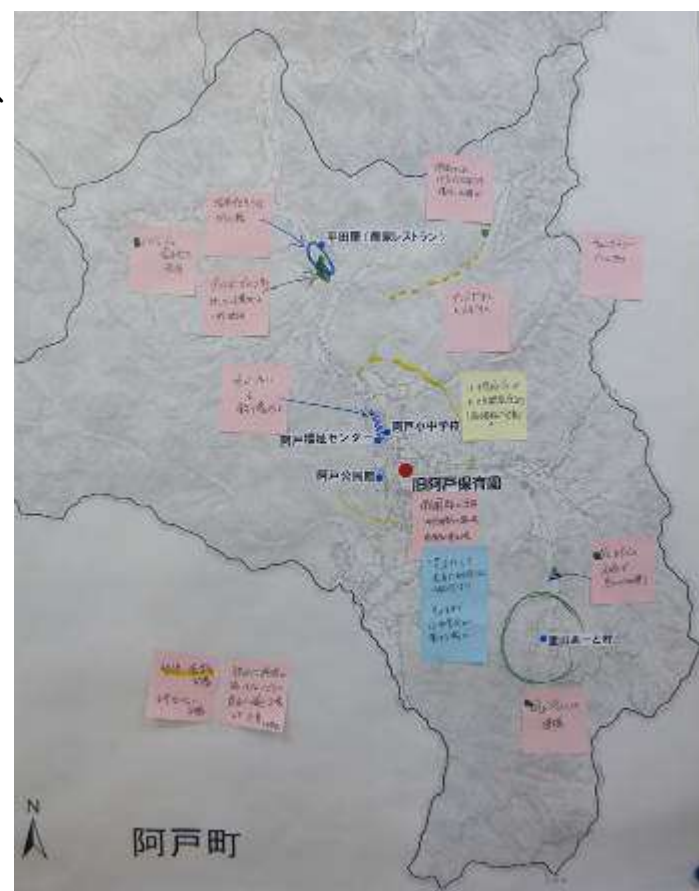
【保育園跡地の活用】

○保育園庭園を芝生化して本当に利用があるか、維持管理が大変なだけにならないか。
→芝生化の方法（ポット苗かロール張りか）、維持管理体制をどうするか。

○遊具等があるので施設側で人が集まるまでは、そのまま広場として活用も。

遊び場づくりの検討

Bチーム 遊び場づくりプロジェクトの検討内容



遊び場の候補地など

